

令和5年度（2023年度）
第3回基本評価等専門委員会
会 議 録

日 時：令和6年（2024年）2月9日（金）15:30～16:15
場 所：北海道第二水産ビル4階 4S会議室

【出席者】

区 分	氏 名	所 属 団 体 等
委員長	水島 淳恵	大阪経済大学経済学部教授
副委員長	武岡 明子	札幌大学地域共創学群教授
委 員	石井 吉春	北海道大学公共政策大学院客員教授
委 員	大賀 京子	北海道教育大学教育学部札幌校准教授
委 員	葛西 さとみ	行政書士カサイ・オフィス
委 員	嘉藤 裕一	公募委員
委 員	中津川 誠	室蘭工業大学大学院工学研究科教授
委 員	村上 裕一	北海道大学大学院法学研究科准教授
委 員	渡部 要一	北海道大学大学院工学研究院教授

【事務局(北海道)】

北海道総合政策部計画局計画推進課長 佐々木 敏

北海道総合政策部計画局計画推進課課長補佐 栗重 理香

ほか

1 開 会

2 議 事

(1) 令和5年度 基本評価の検証について

【水島委員長】

- ・ 事務局から資料に基づき説明をお願いします。

(事務局より資料1に基づき説明)

【水島委員長】

- ・ ただ今の説明について質問、意見等があればお願いしたい。

【渡部委員】

- ・ 資料の5ページ、その他統計数値を用いたことで、判定が上がった施策と下がった施策があるという説明であった。判定が上下した施策のうち、何か特徴的な上下の傾向を把握していれば、教えていただきたい。判定が正確になったという言い方の方が正しいのかもしれないが。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 例えば、地域医療の確保について、全道の医療施設に従事する医師数については判定Aであるが、地域によっては医師数が少ないところもある。その他統計数値では、例えば、看護職員の従業者数、就業者数が少ない地域もある。その他統計数値を判定に加えることで、総合判定が一つ下がり、「概ね順調」になった施策がある。

【渡部委員】

- ・ その他統計数値を加えることで、より一層細かく見ることができるようになったということと理解した。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 多面的なデータを使うことで、より納得感のある判定に近づくものとする。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 補足であるが、例えば、その他統計数値のc判定は0.5点の減点である。先ほどの事例のように、地域の実情を踏まえた場合などに、そうした結果となったものがある。
- ・ b判定が54%と最も多い状況ではあるが、様々なトレンドや直近の推移、数字が抱える課題の中身を考えた場合、b判定ではなく、どちらかと言えばc判定ではないかというものもあった。
- ・ その他統計数値の判定は目標値に対するものではないため、より一層分析を丁寧にしながら、上手に活用していくことが課題である。各部局に対しては、引き続き、こうした趣旨は説明していく。
- ・ 今年度、各委員の協力を得て実施した指標や判定のチェックなど、客観的に議論

する体制も、引き続き必要と考えている。各部局は、様々なデータに向き合うことで、事業にどのようなインパクトがあったのか、政策に効果があったのかなど振り返ることになる。その他統計数値の設定は、重要なデータはしっかり抽出するという趣旨でもあり、引き続き、しっかりと実施していく必要がある。

【村上裕一委員】

- ・ 資料の7ページ、専門委員会等の意見の反映について、今回、一次政策評価の実施方針に明記するとの説明であった。二次政策評価の実施方針にも既に専門委員会等の意見を反映することが明記されているのかどうかを、確認したい。
- ・ もしそうであるならば、一次・二次両方をカバーするもう1つ上位のルールに、専門委員会等の意見を反映するよう明記すれば足りるような気がするが、どうか。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 二次政策評価の実施方針には明記されているが、一次政策評価の実施方針には明記されていなかった。各委員の意見も踏まえた上で反映できる形にしたい、このような案とした。
- ・ 実施方針自体、一次政策評価と二次政策評価で分けて作成しており、各方針に明記する形で考えている。

【水島委員長】

- ・ その他に意見や質問等がなければ、「令和5年度基本評価の検証」に関する議題は終了としたいが、よろしいか。

《異議等なし》

(2) 令和6年度 特定課題評価（案）について

【水島委員長】

- ・ 引き続き、事務局から資料に基づき説明をお願いします。

(事務局より資料2に基づき説明)

【水島委員長】

- ・ ただ今の説明について質問、意見等があればお願いしたい。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 新たな総合計画の策定スケジュールだが、計画は現在、事務局案（原案）の段階にある。今後、2月1日に開催した北海道総合開発委員会の意見などを整理し道議会に提出する。最終案は6月に審議し、夏頃の決定を予定している。

【水島委員長】

- ・ 今の説明は、特定課題評価のテーマも決まるのは夏ということか。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 現在、総合計画は原案段階であり、3つの政策展開の基本方向、その中核にある「人材の育成・確保」など、重要な柱や方向性は固まってきた。
- ・ 計画の決定自体は夏だが、こちらの内容を令和6年度の特定期間評価のテーマとする方向で検討を進めたい。

【水島委員長】

- ・ 今の説明も踏まえて、質問等があれば願います。

【村上裕一委員】

- ・ 今回ターゲットになる「人材」の内容について、具体的な検討はこれからかもしれないが、公務や道民生活を支える人材などが広く含まれるという理解でよいか。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 基本評価において、まず人材の確保、育成に関してどのような取組をしているのか抽出したい。その上で、テーマとして集中的に見るものと考えていきたい。

【村上裕一委員】

- ・ どの分野で人材が不足しているのかという現状分析が先にあり、その上で、人材不足を克服すべき分野、人材を急いで育成すべき分野などを考えていくということか。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 今のところはそう考えているが、先が見えない部分もあり、今後変更となる可能性もある。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 新たな総合計画の策定においても、例えば、農業、漁業、林業など地域産業を支える人材、また、医療・福祉、教育など地域の安全・安心を支える人材、地域づくりを支える人材など様々な議論がある。
- ・ 各部局の取組も、人材の確保、育成という名目で施策を立てている場合もあれば、政策に含めている場合など様々である。
- ・ 人材が確保されなければ、地域産業の成長や発展も止まり、地域の安全・安心が確保されない事態も想定される。外国人材も非常に大きなテーマであり、総合的に見ていく形になる。
- ・ 対象の政策については、一次評価の点検の中で抽出するとしても、二次評価、各委員のご意見をいただく段階では、総合的な視点なのか地域寄りの視点なのか、どのような視点での点検が有効なのかという検討も必要である。大きく分けると、有効性、連携状況、緊急性・優先性などが考えられる。
- ・ 引き続き、有効な評価の実施に向けて、検討を進めていきたい。

【中津川委員】

- ・ 人材の育成・確保については、文字通り人材を育成するだけなのか。人口も減る中で、それに代わるDX、新しい技術を活用して持続的な社会を構築していくというようなニュアンスは含まれるのか。単に人材を増やすということだけなのか。ど

のように解釈すればよいか。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 新たな総合計画の策定では、人口が減っていく状況を前提に、表裏で取組を検討すべきとの議論があり、そうした要素は、計画の方向性をはじめ随所に盛り込まれている。
- ・ 何か片面だけの検討をするのではなく、実効性のある政策、出口として、道民の安全・安心が確保され、地域の産業、経済活動が営まれていくことが重要である。いただいた意見を意識しながら、具体的に実施手法を検討していきたい。

【水島委員長】

- ・ これまでの特定課題評価は、現行 21 の柱について、7 個ずつ、3 年に分けて実施してきた。例えば、労働など、ある程度明確なテーマであった。
- ・ 一方、今回の人材の育成・確保については、重要な視点ではあるものの、テーマ自体が漠然としている。先ほども話にあった地域の問題、今後発展していく産業、少子高齢化など、絡む要素が様々である。
- ・ 現時点では少し大きなテーマ設定であり、今後、ブレイクダウンも必要と思われるが、この辺りはどのように考えればよいか。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 資料 2 の 6 ページだが、現行計画の政策の柱に該当する 18 の項目を記載している。4 月以降、柱の担当割についてご相談、決定していきたい。
- ・ その上で、ご担当の柱の中で、人材育成・確保の視点から内容を確認いただくというようなことを検討している。

【石井委員】

- ・ 要は、施策横断的な課題を選んで評価を実施するということであり、来年度の試みの一つである。横断的な視点は、評価の仕方として重要である。これまでは縦割りで個別に評価を実施してきたが、少し横串を入れるような課題を挙げて、実質的に評価を実施するということである。
- ・ 縦と横それぞれから見る組み合わせを検討する中で、計画の柱をどのように点検するのかという体系が少しずつ出来上がっていくかもしれない。
- ・ 考え方としては、まだトライアルをしている段階であり、全てを決めてしまうと言う話ではない。とりあえず、このような内容で実施してみるという雰囲気なのではないか。今までと少し違う点は、横断的なテーマで全ての施策を点検するということである。
- ・ 実施してみると、案外、深掘りできるものがあったり、施策の様々な拾い方も見えてくるかもしれない。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 人材不足は、完全に横串を通したテーマである。柱毎に分担して見るのではなく、まとめて、全員で見た場合に見えてくる課題や連携不足などもあると思う。横串を通して議論することで、委員会としても議論が深まるかもしれない。
- ・ 進め方については、ご指摘も踏まえながら検討していきたい。

3 その他

【武岡副委員長】

- ・ 参考資料4、成果指標の設定に関する基準の新旧対照表についてである。
- ・ 「新（令和6年度）」の赤字部分、「第2 成果指標の設定に関する基準（6）（1）～（5）の規定により難しい場合は、その他統計数値等による取組分析で補足すること」との記載だが、この案では、成果指標は設定しなくてもよく、その他統計数値等を設定すれば足りるとも読めてしまう。
- ・ 資料1の5ページの説明では、その他統計数値等を利用した施策は全体の6割強で、今後全ての施策に広げたいとのことであった。
- ・ 今年度も成果指標は設定しておらず、従前であれば「判定不可」となっていたものが、その他統計数値の判定を加えることで「判定不可」を回避した施策が2件あった。現状案では、そうしたケースを追認するだけになってしまうのではないか。
- ・ 少し違う表現として、例えば、（1）から（5）までの事項に留意した上で、成果指標を設定し、その上で、必要に応じて、その他統計数値も補足的に設定するというような書きの方がよいのではないか。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 記載を変更する。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ 補足だが、原則、成果指標は設定しなければならない。現状このような記載としたが、ご指摘のような状態にはならないようにすべきである。成果指標を掲げられない施策は、厳しい言い方をすれば、「施策にあらず」である。成果指標を設定する原則は徹底する。その他統計数値は、あくまで指標を補完するものである。
- ・ 新たな政策体系においても、施策には成果指標が設定されていなければならないとの考えの下、編成を進めたい。

【嘉藤委員】

- ・ 一次政策評価の実施方針にある基準日、8月1日現在とあるのは、新しい総合計画の策定されたタイミングと認識してよいか。

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- ・ その通りである。

【村上裕一委員】

- ・ 武岡委員のご指摘だが、第2の1項と2項を合わせて読めば趣旨は伝わるとも感じた。例えば、2項にある内容を1項に書き、成果指標は必ず設定するとした上で、どのような属性が必要かという内容を2項に書くという順序にしてみてもどうか。

【水島委員長】

- ・ 今のコメントも踏まえて、事務局に検討をお願いします。
- ・ その他に意見や質問等がなければ、「令和6年度 特定課題評価（案）」に関する議題は終了としたいが、よろしいか。

《異議等なし》

4 閉会

【事務局（総合政策部計画推進課）】

- 今後のスケジュールだが、4月上旬に、令和6年度の第1回北海道政策評価委員会及び第1回基本評価等専門委員会の開催を予定している。
- 本日も審議いただいた内容を踏まえ、令和6年度の政策評価基本方針及び実施方針等について審議いただく予定である。よろしく願います。